

速報

2013年 7月17日 (水)

「国連で難聴者とうろう者のインクルージョンに向けた画期的な動き」

国連の経済社会局 (DESA) と総会・会議管理局が、ニューヨークの国連で開催される市民社会フォーラム (CSF) と第6回締約国会議 (COSP) に、国際手話通訳者 (内2人はろう通訳者) と字幕をつける活動を先進的に行うことを、世界ろう連盟 (WFD) と世界手話通訳者協会 (WASLI) はうれしく思います。この様子は今週の国連ウェブ生放送で見られます。

国連経済社会局 (UN-DESA) は、世界各国で経済・社会・環境の目標達成を支援している関係者とともに活動しています。UN-DESAは国連発展の要としての責務を負っており、そのひとつとして、CSFやCOSPのような国連会議への支援があります。

7月16日火曜日の会議速報で、すべてのフォーラムが国連からウェブ生放送され、初めて国際手話と字幕がついたことを発表しました。

WFD 名誉会長のマルク・ヨキネン氏は「国連がWFDとWASLIとともに活動して、締約国会議に字幕と通訳をつけたことをうれしく思います」と述べました。

そしてWASLI前会長リズ・スコット・ギブソン氏は、「国連がニューヨークの第6回締約国会議で手話通訳つきウェブ放送を行ったのは喜ぶべきことです」と述べました。

WASLI現会長デブラ・ラッセル氏は、国連がこのように積極的な行動を起こしたことによって、世界中の人々がこれらの会議情報にアクセスできるようになったことをWASLIとしてとても喜んでいるというメッセージを広めたいと思っています。この通訳モデルにろう通訳者が含まれていることが成功の鍵です。私たちは、ろう者の言語権が引き続き国連によってサポートされていくことを楽しみにしています。

また、WFD現会長のコリン・アレン氏は、彼が国際障害同盟第二副議長として出席する9月23日の「障害と発達についてのハイレベル会議」においても国際手話と字幕がつけられること、そして近い将来ろう者・難聴者のインクルージョンのために、国連の会議や行事すべてにおいての基準となることを期待する」と述べています。

詳細はWFD渉外担当、ペギー・プロッサーまで。

peggy.prosser@kl-deaf.fi

Tel: +358 9 580 3573, Fax: +358 9 580 3572